

CONTENTS

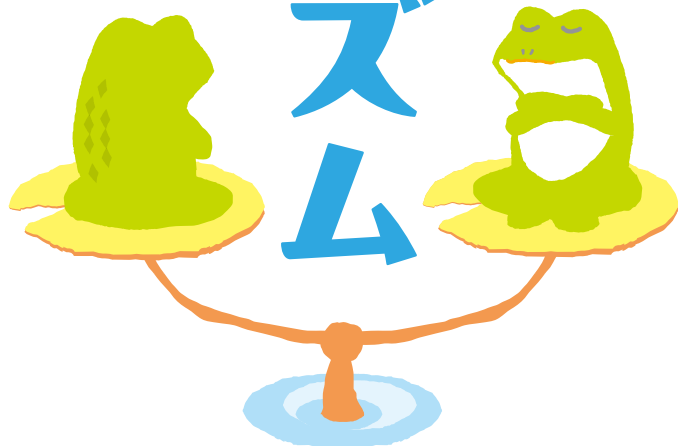
- ① 『フェミニズム』とは？
- ② 大学生が語る！私たちのフェミニズム
- ③ なぜ理工系に女子が少ないの？
- ⑤ すてっぷ講座の実施報告・ブックリスト など

みんなの フェミニズム

④ Special COLUMN

優遇ではなく平等

武田砂鉄
（ライター）



男女共同参画ハンドブック



『フェミニズム』と聞くと あなたはどんなことをイメージしますか。

女性の権利を声高に主張する人たち？
男性を敵視する危険な思想？

日本では偏ったメディアの働きもあり、
マイナスなイメージを持つ人が多いかもしれません。



**フェミニズムとは、“女性に不利益をもたらす差別をなくして、
女性が自らの生き方を自由に選択できるようにすることをめざす
思想と運動”のことです。**

(井上輝子「日本のフェミニズム 150年の人と思想」) 引用

現代の日本社会においては、「女性だから」という理由で投票権がなかったり、
高等教育が受けられないことはありません。しかし、男女間の賃金格差や女性の政
治参画の低さ、家事や子育てが女性に偏っているという性別に起因する解決すべき
課題がまだあります。

女性だけではなく性的マイノリティ、障害者、海外にルーツをもつなどの周縁化
された人々の問題を解消し、「女らしさ」・「男らしさ」ととらわれない社会にする
ために、ジェンダー研究や男性学の源流ともいえるフェミニズムについて、一緒に
考えてみませんか。

日常生活の中で感じるモヤモヤや心がざらっとする違和感を軽くしてくれる
ヒントが『フェミニズム』を通して見つかるかもしれません。

さくっとみえる 日本のフェミニズム

日本のフェミニズムは家父長制の社会で当たり前とされてきた性差別に、
女性たちが疑問を持ち、声をあげたことから始まります。

【第一波フェミニズム …1910年～1940年代】

1911年に平塚らいてうによって雑誌「青鞥」が創刊され、女性の生き
方や女子教育、中絶をテーマに論争が起こりました。女性が参政権を獲得
したのは、第二次世界大戦後の1945年でした。

キーワード ▶ 家制度 / 家父長制 / 市川房枝 / 山川菊栄



平塚 らいてう

【第二波フェミニズム …1960年代以降】

1970年代ウーマン・リブ (women's liberationの略) と後に呼ばれる
女性運動が日本各地で始まりました。国連は1975年を「国際婦人年」
とし、世界中でフェミニズムが活発化しました。現在のジェンダー不平
等を是正するための骨子といえる女性差別撤廃条約に、日本は1985
年に批准しました。

キーワード ▶ 「個人的なことは政治的である」 / ラディカル・フェミニズム



【第三波フェミニズム …1990年代～2000年代】

ある程度女性の地位が向上したためフェミニズムは必要ないとする
「ポスト・フェミニズム」と、保守的な価値観に引き戻そうとする「バック
ラッシュ」の間で、個人を解放する文化活動が盛んになりました。また、
人種、民族、障害、性的指向などにおけるダイバーシティ(多様性)が
重要視され始めました。

キーワード ▶ セクシュアリティ / 多様性 / インターセクショナリティ



【第四波フェミニズム …2010年代以降】

情報化社会の急速な発展とともに、フェミニズムもSNSやオンライン
を活用して展開されました。誰でも当事者として声をあげることが可
なり、フェミニズムの裾野が広がりました。世界中で巻き起こった
#MeToo運動は、性暴力に対する社会の認識を変える大きなきっかけ
となりました。

キーワード ▶ #MeToo運動 / フラワーデモ / オンラインアクティビズム / #KuToo



【参考資料】

- 上野千鶴子 (2022) 「フェミニズムがひらいた道」 NHK出版
- ジェンダー事典編集委員会 (2024) 「ジェンダー辞典」 丸善出版
- 朝日新聞SDGs ACTION! 「フェミニズムとは? 意味や歴史、事例、課題をわかりやすく解説」
<https://www.asahi.com/sdgs/article/14819871>



先人の女性たちが築いてくれた道が
今につながっているんだね。

大学生が語る！私たちのフェミニズム

ジェンダー平等な社会に向けて「学び、つながり、アクション」を行っている関西の大学生グループ「BeaGe(ビージェ)」のメンバー3人にフェミニズムとの出会い、日々感じるモヤモヤやご自身が大切にしていることについてお話をいただきました。



1 「フェミニズム」と出会ったきっかけについて教えてください。

齋藤 学生団体で活動していた時、メンバーは女性が多いのにトップは男性ばかりという状況に「あれ？」と思って興味を持ちました。

畠中 自分がずっと理系で、女性が理系をやっていくハードルの高さ、というか難しさを感じていました。そういうモヤモヤした気持ちを話せたら楽しいやろうなあと思ったことがきっかけです。

金子 大学で交通事故の賠償金の判例について学んだことがきっかけです。生涯賃金を理由に女性と男性で賠償金の差がある事を知って、衝撃を受けました。それで女性の権利などについて学びたいと思いました。

2 日常生活でジェンダー・バイアスを感じる(た)ことはありますか。

金子 小学生の頃、双子の片割れ(男)とサッカースクールに通っていたんですけど、男の子から「(女やのに)なんでやってるん」って言われたことがありました。あと、家でお皿洗いをしても私は褒められない。でももう一人がしたら褒められるみたいな。なんなんだ、これはっていう。

齋藤 私は姉妹だからそういう経験はないかも……。

畠中 私は塾に行っていた時、「女の子のになんで算数が好きなん？」って親や大人に言われたことがあります。

齋藤 私も。大学進学時に、工学部に行きたいって言ったら「女の子のになんでどうするの」と言われました。そういう大人の発言で選択の幅を狭めちゃってると思うと、女の子男の子関係なく進路をもっと選べるようになった方がいいなって思います。

金子 今だと就活説明会のとき、オフィスカジュアルでOKって書かれていてもスカートを穿いていったほうがいいのかと悩みます。

一同 あー。(同意)

齋藤 私はカジュアルな服でどうぞっていう会社ばかり受けたんですけど、ほぼリクルートスーツを着ずに就活をしました。でもやっぱりスカートのほうがいいんだろうなって思ったり……。

畠中 就活でしか使わない形のパンプスを買ったりね。

習い事、学校、就活…あらゆる場面で「女の子(男の子)だからこうすべき」というジェンダー・バイアスがありますね。

畠中 きっと男性も「男性だから」って言われてきて苦しんでいる経験があるんだろうなって。男性は「失敗しちゃいけない」、「つらいって言っちゃいけない」というプレッシャーを強く感じているのかなど。女性同士のコミュニティだと、失敗や間違えた時に「それでもいいやん」、「こういう考えもあるよね」って受け入れる雰囲気があるような気がします。

なるほど。プレッシャーを感じずに自分の話ができる雰囲気が社会全体にもっと広がればいいですね。

3 フェミニズムを知ってご自身に変化はありますか。

畠中 ドラマとか単純に楽しめなくなりました。

一同 わかる！(笑)

畠中 男性がリードして女性が受け身みたいな恋愛ドラマを見たとき「かっこいいな、こうやってリードされたい！」って昔は思ってたけど、それって女性に主体性は必要なくて「女性はこうあるべき」という社会の理想像を植え付けられていたのだと気づきました。

齋藤 これまでは自分がモテないから悪いんだとか、出来損ないなんじゃないかみたいなことを思う事があったけど、そこは社会に作られた女性像みたいなものが自分の中にもあるよな、って考えるようになりました。結婚について焦りもゼロではないけど「なんで焦ってるんだろう」と考えられるようになったし、俯瞰できるようになりました。最近は「一人で生きていく方がかっこいい」とも思えるようになって。

金子 私は逆に結婚したいと思いました。私の中では「男性は女性を下に見ている」という考え方があって、結婚にマイナスイメージがありました。でもジェンダーの勉強を始めて、みんながみんなそうじゃないっていうことを知って、結婚っていう形にとらわれなくてもいいけど、誰かと支え合って生きていくことって悪いことじゃないんだって思えました。

4 日々の生活でなにか心がけていることはありますか。

畠中 自分の言葉で性別を付与しすぎないようにしようとは思ってます。例えば「お姉ちゃんなんだから」とか。その言葉の裏には「お姉ちゃんは我慢すべき」、「年下の子の面倒をみるべき」などジェンダー規範が隠れているから、そういう言葉をできる限り言わないようにしてます。

齋藤 彼氏・彼女と言わずにパートナーって言ったり、第三者を指すときも彼・彼女をできるだけ使わないようにしています。あと、女の子は感情的で男の子は論理的だからっていう前提で恋愛トークが進んでいく時なんかは、「いやまあ個人差の方が大きいんじゃないかな」というツツコミをボソッと入れます。

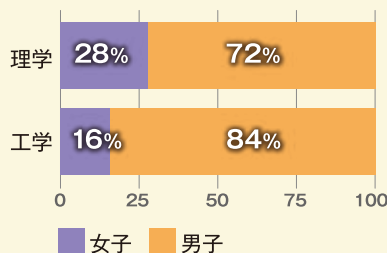
おお！そこに性別は関係ないんだっていいことですね。

金子 私は性別役割分担意識を再生産しないという強い気持ちを持って、日々過ごしています。

BeaGeのみなさん、ありがとうございました！

フェミニズムと私たちの生活は意外と身近につながっています。政治、メディア、労働、教育、家族など暮らしの中の様々な分野と関わっています。ここでは教育における「はて？」という違和感を、フェミニズムの視点でみていきましょう。

なぜ理工系に女子が少ないの？



出典：文部科学省「令和5年度学校基本調査」

2023年の4年制大学の進学率は、男子60.7%、女子54.5%でした*1。1県を除いた都道府県すべてで、男子の進学率が上回っています。また、理工系学部に進学する女子の割合は、理学部約28%、工学部約16%と極めて低いのが現状です。

男女の教育格差や専攻学部によって男女の著しい偏りが生じる要因の一つとして、親や周囲からの**アンコンシャス・ジェンダー・バイアス**（性別に起因する無意識の決めつけや思い込み）があげられます。

例えば…こんな考え方

男の子にはいい大学に行っていい会社に就職してほしい。

女の子に理数系の科目は向かない。

女性は就職しても、結婚や出産を理由に仕事を辞めてしまう。

教育に限らず、私たちの生活の至る所にジェンダー・バイアスはみられます。「女性は家事・育児を担うべきだ」、「男性は家族を養ってこそ一人前だ」…こうした無意識の決めつけや偏見の多い社会では、人々は生きづらさを感じやすく、自己肯定感が低くなりがちです。

近年、一部の大学で理工系学部女子学生の人数を増やす取り組みが行われています。定員枠を女子生徒に限定するいわゆる女子枠の導入です。こうしたポジティブ・アクション*2に対して「逆差別ではないか」、「女子だけ優遇されるのか」などという批判もありますが、女性差別撤廃条約では暫定の特別措置は差別にあたらないと明記されています。性別に関わらず誰もが「自分で選んで自分で決める」ことができる社会になれば、ポジティブ・アクションも必要なくなっていくはずです。

「なぜ？」の先にある未来

フェミニズムは、女性の地位向上はもちろんのこと、あらゆる性差別をなくし、性別によって不利益を被らない誰にとっても生きやすい道をつくることをめざしています。また、社会構造や制度、慣習などを批判的なまなざしで見ることを可能にしてくれます。

社会運動やデモに参加しなくても、身近な出来事にふと疑問を持つことから、フェミニズムは始まっています。

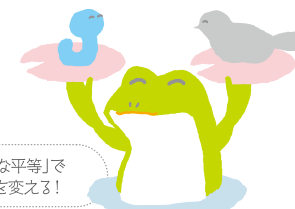
自分なりの“フェミニズム”を探してみませんか。
昨日までとは違う世界が広がるかもしれません。

*1 出典：国立社会保障・人口問題研究所「表11-3 性別高等学校・大学への進学率：1950～2023年」
https://www.jpss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/P_Detail2024.asp?fname=T11-03.htm

*2 社会的・構造的な差別によって不利益を被っている者に対して、一定の範囲で特別の機会を提供することなどにより、実質的な機会均等を実現することを目的として講じる暫定的な措置のことをいいます。

出典：男女共同参画局「ポジティブ・アクション」
https://www.gender.go.jp/policy/positive_act/index.html

【参考資料】●朝日新聞「女性の進学 消えない壁」（2024年5月5日付）
●朝日新聞「女性の進学とキャリア」（2024年8月25日付）





優遇ではなく 平等

武田砂鉄 (ライター)

185センチもある大男、しかも、愛想がいいわけではない自分。実際には、小心者というか、常に選択に迷っている人間ではあるのだが、初見の人からすると怖そうというか、「ちゃんと対応しておかなければならない人」に見えるらしく、いきなりぶっきら棒な対応をされることはほとんどない。だからこそ、隣にいる人にぶっきら棒な対応をしているのを発見すると、「そうか、そういう人なのか」とわかってしまう。

185センチの大男に対する対応と、150センチの女性とで対応をハッキリ変える人がある。こちらには過剰な敬語を使い、女性にはタメ口で話しかける。何を聞くにも自分が先で、女性が後になる。妻と歩いていると、常に自分が優先される。腕を組んで歩いているわけでもないし、互いに結婚指輪もし

ていない。格好もバラバラだ。それでも、大きな男と小さな女が歩いていると、社会は、人は、大きな男に合わせてくる。

大男は優先されすぎている。これではいけない。その時に、「やっぱり、小さな女が優先されるようであればいけない」と考えているわけではない。フェミニズムの話をすると、すぐに「男だって大変だ」「女が優遇されすぎて逆差別だ」との声が膨れあがる。そんな声をあげる人は、「平等」という文字を見て「ゆうぐう」と読むのだろうか。平等は優遇を作ることではない。男と女で争わせて、既に優位な位置にある男がその居場所を守る、あるいは女が奪い取る、フェミニズムはそんな戦いを望んでいるわけではない。

フェミニズムについて考えてこなかった男性たち、あるいは、できればまだ考えたくない男性たちは、この考え方が自分たちのフィールドに入り込んでくると、価値観がひっくり返ってしまうと思っているらしい。自由気ままにできなくなると怖がっているらしい。確かに、話を聞くとすぐに「なんでもかんでもダメと言われたり、気をつけなきゃいけないかったりもう大変……」みたいな愚痴が出てくる。ちっともそんな段階がないのに、あれこれ大変ですよ、という表情を浮かべる。自分たちの言動を制限する厄介なムーブメントだと捉えている。しかも、それだけで終わる。つまり、改善には付き合わずに、防御だけする。

以前、『マチズモを削り取れ』と題した本を書き、社会のどのような場面に男性優位主義が残っているのか、あちこち取材しながら一冊にした。すると、その反応として見かけたのが「女の味方をしている本」といった感想で、あたかも陣地争いをしている敵の陣営に寝返ったかのように受け止められていた。そうではなくて、荒れている土壌を整えて、それぞれが暮らしやすくなるためにはどう

したらいいのかを考えたのだが、男性が優位な状態を見直そうとすると、すぐに敵認定されてしまう。

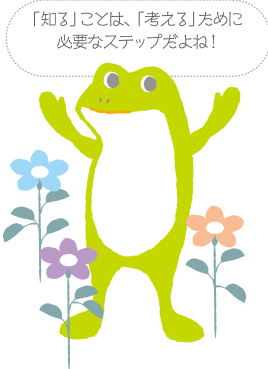
徐々に変わってきてはいる。「あちらばかり優先させるな」ではなく、「平等に暮らせるようにしましょう」、こっちだ。さすがに認識は変わってきた。これから、フェミニズムが長年問い続けてきた議題を踏んづけられないために必要なのは、男性が「自分たちの存在がおびやかされている」と考えないようにすること。そのための働きかけではないのだ。正直、いつまでその説明が必要なんだよと思うけれど、説明しないと拗ねたりするので説明を繰り返す。優遇ではなく平等をめざしているのだ。

武田砂鉄

東京都生まれ。出版社勤務を経て、2014年よりライターに。2015年『紋切型社会』（新潮文庫）でBunkamuraドゥマゴ文学賞受賞。著書に『日本の気配』（ちくま文庫）、『マチズモを削り取れ』（集英社文庫）、『べつに怒ってない』（筑摩書房）、『父ではありませんが 第三者として考える』（集英社）、『テレビ磁石』（光文社）などがある。週刊誌、文芸誌、ファッション誌、ウェブメディアなど、さまざまな媒体で連載を執筆するほか、近年はラジオパーソナリティとしても活動の幅を広げている。

「フェミニズム」に対するイメージは 変わりましたか？

フェミニズムやジェンダー問題について
もっと知りたいと思ったら、
すてっぷ情報ライブラリーへお越しください。
本に触れて、「知」の旅に出ましょう！



すてっぷ講座の実施報告

男女共同参画週間事業として、和田彩花さんを講師にお招きして
『アイドルの私がフェミニズムについて考えてみた
～私の未来は私が決める～』[2024 6/29 (土)]を開催しました。



女性アイドルの活動は、社会から期待された役を演
じることであり、実社会での女性の生きづらさに
つながっていることをお話いただきました。若い世
代の参加が大半を占め、フェミニズムやジェンダー
問題について知ってもらう機会になりました。

参加者の声

フェミニズムについて、今まで深く考えたことはありませんでしたが、「女性らしさ」という
ものは社会が作るということを和田さんの講演を聞いて改めて思いました。

*

私自身男性で「男らしく」ということに時々疑問に思うことがあり、これから色々学んで
いきたいと思いました。

ブックリスト (すてっぷ情報ライブラリー所蔵)



日本のフェミニズム
150年の人と思想

井上輝子：著
有斐閣 2021年



分断されないフェミニズム
ほどほどに、誰かとつながり、
生き延びる

荒木菜穂：著
青弓社 2023年



上野先生、
フェミニズムについて
ゼロから
教えてください!

上野 千鶴子：著
田房 永子：著
大和書房 2020年



ハマれないまま、
生きてます
こどもとおとなのあいだ

栗田隆子：著
創元社 2024年



マチズモを削り取れ!

武田 砂鉄：著
集英社 2021年



マジョリティ男性にとって
まっとうさとは何か
#MeTooに加われない男たち

杉田 俊介：著
集英社 2021年

児童書もたくさんあります!



10代のうちに
考えておきたい
ジェンダーの話

堀内かおる：著
岩波書店 2023年



NHK Eテレ「u&i」えほんシリーズ
男らしく、女らしくがいいの?
〜ジェンダー〜
NHK Eテレ「u&i」制作班 編

西田征史：原作 鈴木友唯：絵・装丁
ほるぷ出版 2022年



■ 情報ライブラリー

男女共同参画社会の実現に向けた
専門図書室です



■ 相談

あなた自身の力を大切にしながら
次の一歩を踏み出す応援をします



■ 講座・イベント

男女共同参画を推進するための
講座、イベントを実施しています



■ 貸室

市民活動など非営利のイベント等に
利用できます

[企画・編集・発行]

とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ

指定管理者：一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団



〒560-0026 大阪府豊中市玉井町 1-1-1-501

TEL 06-6844-9772 (代表) FAX 06-6844-9706

■ 開館時間 9:00～21:30 (水曜・年末年始 休館)

<https://toyonaka-step.jp/>



X @toyonaka_step



LINE



[発行日] 2025年(令和7年)3月31日